

# 浄泉寺報

第37号  
2024年  
お盆



切り灯籠と今年の盆会

## お盆のこと

浄泉寺住職 望月廣三

お盆の原意が「溺愛の罪」だときいて驚かない人はいないでしょう。お盆は正しくは「盂蘭盆会」と言いますが、これは古代インドの言葉、「ウラバナ」の音訳です。ですから当然、ウラバナとは何か、を知る必要があります、その意味が“倒懸”（逆さ吊り）だとわかればびつくりでしょう。

何が、「逆さ吊り」なのか、誰が「逆さ吊り」なのか？それはお釈迦様の弟子である目連の母親のことなのです。彼女が息子の目

連を溺愛した罪で、地獄で逆さ吊りになりました。むやみやたらと子どもをかわいがるのが、どれほど怖ろしい罪を子どもに犯すことになるか、知らない人は誰一人いないでしょう。溺愛のために、その生涯が無惨なものに終わった人を多く目にしているからです。

人間は自分の所有する物(財産、子どもすべてです)に執らわれま

よって知らされ、新しい自分と人

### 浄泉寺からのお知らせ

#### ● 秋彼岸のお参り ●

九月のお彼岸のお参り日程は、後日お葉書にてお知らせします。

#### ● 同朋会 (月例法座) ●

浄泉寺では、毎月お勤めと住職の法話を中心にした同朋会を開催しています。どなたでもお気軽にご参加いただけますので、ぜひお越しください。

### 若坊守のひとりごと

妊婦になって街を歩くと、大きなお腹を守るように歩く人によく気づくようになりました。子どもと出かけるようになって、それまで知らなかった優しさや配慮に気づくようになりました。しかしそれは今まで見えていなかった

た、もしくは見ようとしなかっただけで、ずっと周りにあったものです。その立場に立ち、自分の身を通して初めて見えてくること

がたくさんあるのだと思います。お盆は亡き人を偲ぶという仏教行事です。亡くなった人を供養する気持ちも大切ですが、大切な家族や友人を亡くして初めて、「死」というものを自分事として考える機縁となる、大切な仏事だと思えます。「自分の」大切な人の死というものは、何よりも苦しいことですが、その苦しさがなければ、「死」というものを自分から遠いところに置いてしまう私たちです。「死」を自分事として引き受け、今ある「生」こそ、どう考えるのかと亡き人を通して問われているのではないのでしょうか。

(浄泉寺若坊守・釋尼彌名)

## お内仏(仏壇)に座る ㊤ ～「御文」に聞く(1)～

それおもんみれば、人間はただ電光朝露の、ゆめまぼろしのあ  
 いだのたのしみぞかし。たといまた栄花栄耀にふけりて、おも  
 うさまのことなりというとも、それはただ五十年乃至百年のう  
 ちのことなり。もしただいまも、無常のかぜきたりてさそいな  
 ば、いかなる病苦にあいてかむなしくなりなんや。まことに、  
 死せんときは、かねてたのみおきつる妻子も、財宝も、わが身  
 にはひとつもあいそうことあるべからず。されば、死出の山路の  
 すえ、三途の大河をば、ただひとりこそゆきなんずれ。これに  
 よりて、ただふかくねがうべきは後生なり、またたのむべきは  
 弥陀如来なり、信心決定してまいるべきは安養の浄土なりと、  
 おもうべきなり。 (『御文』1帖目第11通)



浄土真宗で飾られる切子灯籠。  
 一説には、下がっている紙が髪  
 の毛を表し、逆さ吊りの姿を模  
 したのともいわれています。

室町時代の蓮如上人の書かれた「御文」に「[意識]仏さまの教え  
 をいただいてみると、人間はまったくもって儂い(ほかな)としか云いようの  
 ない世界を生きています。世間的に成功して何もかも思い通りにな  
 ると思っけていても、必ず死にゆくこの身です。今この時も、縁さえ催せば病気になるって死んでしま  
 う身です。そして死んでゆくとときは、頼りにしていた家族や、大切な財産もこの世に置いていくし  
 かありません。人間は生まれる時も一人ならば、死にゆく時も一人です。嗚呼、そんなこの身を思  
 えば、この私の在り方を教えてくださる阿弥陀さんの世界に照らされて、今を確かめて生きること  
 が大切です」とあります。“本当に大切なものは  
 何だ?”と、私に問いかけてくる文章です。

私に先立って亡くなっていかれた方をご縁とし  
 て、お盆には手を合わせます。どんな人間であっ  
 ても100%背負っている「死」ではありますが、  
 どうがんばっても自分が生きている間に自分で自  
 分の死を経験することはできません。近しい人の  
 死を通して、私にも必ずやってくるこの身の事実  
 に気づかせていただくことしかできません。その  
 意味においても、私に先立って亡くなっていかれ  
 た方は、この私に大切なことを教えてくださる仏  
 さまなのです。 (浄泉寺若院・釋亜世)

### 令和6年(2024年)年忌表

ご法事(年忌法要)は、亡き人をご縁に仏さまの教  
 えを今生きる私たちが聞かせていただく大切な機  
 会です。浄泉寺本堂でご法事を勤めることもできます。

一周忌	令和5年(2023年)亡
三回忌	令和4年(2022年)亡
七回忌	平成30年(2018年)亡
十三回忌	平成24年(2012年)亡
十七回忌	平成20年(2008年)亡
二十五回忌	平成12年(2000年)亡
三十三回忌	平成4年(1992年)亡
五十回忌	昭和50年(1975年)亡

### <発行元・問い合わせ>



真宗大谷派 楠林山 浄泉寺

電話 0799-22-4798

〒656-0026 洲本市栄町4-3-43

ホームページ <http://jyosenji.asei.info>